

# 運営等についてグループワークまとめ③

環境テーマ	伝えたいこと（例）	伝えるためのプログラム（例）	主な利用空間	顔が見える運営に必要な要素（例）
全般	『1人で悩まないで』 例えば、すてたいけどすてられない物などの悩みを他者と共有し、解決の糸口をつかんだり、共有することで新たな活動を生み出す。	もやもやカフェ	フリースペース または カフェ (仕切りのない空間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 支配人を置く 【支配人の人物像】</li> <li>・フットワークが軽い人</li> <li>・地域とつながれる人</li> <li>・まきこみ力のある人</li> <li>・聴く耳をもつ人</li> <li>・出てきたアイデアを形にできる人</li> <li>・直営（囑託でも）</li> <li>● 企業からの出向先</li> <li>● こんなスタッフがいるとよい</li> <li>・専門的な知識がある（適確に相談窓口を案内してくれる）</li> <li>・コーディネーター（3人以上必要）</li> <li>・おしゃべりなおばさん（交流を促す）</li> <li>・外へつないでくれる（交流を促す）</li> <li>・SNSをマメに更新する（情報発信）</li> <li>● 運営の視点 ソーシャルインパクト 市民生活への波及効果を踏まえて、定量的に施設を評価、エコプラザ独自の目標・指標を掲げる。 例えば・・・ ごみ減 → ごみ処理経費削減 元気な高齢者が増える → 医療費削減</li> <li>● 市民も運営側に 利用者と運営者を明確に区分せず、利用者も運営に携わり、施設に関われるような仕組みがあるとよい。</li> <li>● 参考事例 ・けやきコメン だれでも（市民でなくても）参加できる。だれかが何かをやりたいと言えば、とりあえずやってみることができる。</li> </ul>
全般	『専門的な環境の基礎知識を学ぶ』 SDGsなど、企業でも環境に関する知識が求められている。働き方改革で、仕事以外の時間の確保がしやすくなってきていることも踏まえ、社会人に環境の基礎知識を伝える。	大人（特に文系）のための環境連続講座 (オープンカレッジ的なもの)		
全般	『地球視点』 普段は自分の身の周りのことしか見えないが、ものがどこからくるのか、産地の環境（自然環境、労働環境等）など地球規模の視点で生活を見直す。	みんなで展示をつくる 子ども、大人、企業、専門家など色々なレベルの展示 親子で夏休みの宿題もいいのかも？	フリースペース	
ごみ	『もったいない精神』 使い捨てしない、よい物を長く大切に使う。	直し方を学ぶ、市民同士教え合う。（もくもくと作業するのではなく、交流が生まれる仕掛けが必要） ものづくり工房利用者講習会（工具の使い方などを学ぶ） 直すのに必要な部材（パーツ）のストック。 部材（パーツ）をストックするために、廃材を解体・分別する。	ものづくり工房 ・ ストックヤード	
生物多様性	『メダカを放流しないで』 家庭で飼育されているメダカの多くは外来種である。外来生物を放ってはいけないことを伝える。	家庭で飼育しきれなくなってしまったメダカなどを引き取る。 エコプラザに大きな水槽を置き、そこに放し、欲しい人が持ち帰る。		● 参考事例 ・アーツ千代田3331 地域となにかやることを条件に事業者を公募しており、地域とよいつながりができている。
緑・農地	『農地の大切さ・おいしい食・地産地消』 法制度の影響もあり、農地の宅地化がますます進むことが懸念されるため、農地を保全するために、農地の大切さを伝えていく。	地元野菜直売所 まちなか農家プログラム（三鷹市）の武蔵野市版 エコクッキング 植物・野菜工場（水耕栽培の実験）	キッチン	